

柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211 kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170 tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825 shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855 yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011 hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125 ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

地域に飛び出す学生たち

武蔵野大学社会福祉学会の活動から

今、市内にある大学は、多様なかたちで地域との交流をはかっています。今回は、武蔵野大学社会福祉学会のボランティア活動に焦点をあて、関係者の皆さんに取材しました。

●社会福祉学会の取り組み

武蔵野大学人間科学部社会福祉学科には、「社会福祉学会」という学内学会があります。在籍する全学生と教員から構成され、社会福祉に関する研究や活動、地域福祉にかかわる人々との交流をすすめています。その中にボランティア活動を担当する部門としてボランティア部が置かれ、西東京市はもちろんのこと、三鷹市、武蔵野市などの

近隣市や、夏は長野県下内郡栄村でボランティア活動を行っています。

●田無公民館まつり

市内では、「こそだてフェスタ@西東京」やボランティア・市民活動センターの「ボランティアフェスティバル」、市民協働推進センターゆめこらぼの「NPO法人まつり」などに参加しています。きっかけは、大学の教員から声をかけられたり、



岩田詩歩 (3年生) ボランティア部部長
「ボランティアは自分を出せる場です。「これができるだけでは参加できない」というようなものではありません。堅苦しく考えないでまず参加してほしいです。参加することが次の一歩につながります」

小林 菜 (3年生) ボランティア部副部長
「ボランティアとしてその場にただいて、とても喜んでもらえます。こんな自分でも役に立っていると思うと、自信につながります」

小林香織 (3年生) 田無公民館あめんぼ青年教室 ボランティアスタッフ
「受け入れる側と参加する側。互いにとって、楽しい場になればいいと思います。自分が楽しめるからこそ続けることができます。楽しいと生活の一部になります」

ボランティア部の広報で知ったりとさまざまです。

「田無公民館まつり」にも、昨年からの多くの学生が協力しています。公民館職員と出合いがあった学生が「行ってみたい」と同期や先輩に声をかけてくれたのです。今年も昨年参加した学生が先輩を誘って参加し、先輩から後輩へとバトンが受け渡されています。

学生たちは、展示用パネルの運搬や自転車整理といった裏方の仕事をしたり、ワークシヨップ、催し物などを手伝ったりしました。

「工」紙トンボ作り」を手伝った小林菜さんは、「子どもたちと一緒に紙トンボを作って体育館で飛ばした時、おねえちゃん、おねえちゃん」と喜んで遊んでくれて、とても嬉しかったです」と、感想を話していました。

小林香織さんは昨年参加したことがきっかけで田無公民館の「障がい者学級あめんぼ青年教室」のボランティアスタッフになりました。「活動は楽しいです。最初どう接して良いかわからなかった学級生とも付き合っていくうちに仲良くなりました。年代の違う他のボランティアさんからも教えてもらう事が多く、勉強になります」と言います。学生の存在は活動を盛り上げ、楽しい場を作ります。

活動の柱の一つである栄村復興支援は、今年で4年目を迎えます。栄村は2011年3月12日、東日本大震災の翌日の地震で大きな被害を受けました。同村と武蔵野大学は縁があったことから、「何かしたい」という気持ちを抱いた学生たちがボランティアを始めました。現在は、「生活再建のお手伝い」から「つながりを大切にした活動」に変わってきています。

●つながりを感じた栄村の活動

「栄村では、お祭りの時に栄村の歌を歌いながら、提灯を持って村を一周します。行列に参加していない人も玄関に出てきて見送りをしている様子を見て、村がひとつになっていると感じました。そのような人と人のつながりがあれば、悩みを相談する関係ができ、地域で孤立することがなくなるのではないかと思います。現地に足を運ぶことで学べることは多いです」と、岩田詩歩さんは栄村での体験を語っています。

●地域の中へ

活動をする中で西東京市がどう見えるか3人の学生に尋ねると、「世代間交流ができるイベントがたくさんあり、つながりを大切にしていると感じています」という答えが返ってきました。栄村での体験から、地域の中で人と人がつながることの大切さを実感したからこそ、このように感じたのでしょう。

実践的な学びと地域貢献を目指す大学の取り組みと、交流を求めて地域へ向かう学生たちの動きは、地域活動の活性化につながっています。



武蔵野大学 人間科学部 社会福祉学科長 小松美智子教授の話

「大学の4年間は色々なことを体験できるよい時期です。大学の中で学ぶだけではなく、学生たちが自主的に地域の活動にかかわり、経験し、実践的に学んでいくことは大切なことです。地域に暮らす一人ひとりの生活に触れ、その背景について考え、社会のさまざまな課題に目を向けて問題意識を持つことは、社会福祉を学ぶ学生にとって大事なことだと思います。社会にある矛盾に目を向け、それを感知できるアンテナを張ってほしいと思います」



「Write It On Your Skin」 ニュートン・フォークナー



清水智子 (保谷町在住)

2、3年前、新間のCDの紹介でたまたま知ったこのアルバム。何となく気になっ、YouTubeで聴いてみたら、Acousticティックギターのテクニクがすばしくてびっくり！即、CDを買いました。

ギターの弦をすべらす音やギターをたたかき、一本のギターだけとは思えません。そして、ちょっと鼻にかかったようなハスキーな歌声もとても耳に心地よく、高音も魅力的です。ロックでもなく、フォークでもなく、私のようなおばさんにも聴きやすいアルバムです。



ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル

おばさんぽ。

優しい子になってほしいと願う名付けられた優星くん(3歳10か月)は、お母さんの調子が悪いと心配して冷却シートをおでこに貼ってくれる素敵な男の子です。口元がキュッと上がるかわいい笑顔は、お母さんの珍姫さんと一緒。新幹線が好きです。

